

宮城県南三陸町の道の駅「さんさん南三陸」11日午前



復興集大成 伝承担う

道の駅「さんさん南三陸」開業

東日本大震災の被災地の宮城県南三陸町で復興事業の集大成と位置付けられた道の駅「さんさん南三陸」のオープニングセレモニーが1日、開かれた。震災伝承館「南三陸311メモリアル」が入り、記憶の継承を担う。セレモニーで佐藤仁町長は「道の駅は震災伝承や防災教育、支援してくれた方々に感謝を伝えることを最大の目的とした。命の尊さや生きる喜びを感じ、次の世代に伝えてほしい」とあいさつした。

建物内には、バス高速輸送システム(BRT)のJR志津川駅が移転。町観光協会の事務所も入る。南側には、復興の象徴となり、2017年に本格再建した南三陸さんさん商店街がある。

道の駅のデザインは、国立競技場の設計で知られる建築家隈研吾氏が手がけた。セレモニーで隈氏は「道の駅によって町の過去と未来、さらに町民のなりわい

である海と山をつなげることをイメージした」と説明した。新設部分の敷地面積は約1万1千平方メートル、事業費は約14億円に上った。南三陸町は震災で死者・行方不明者が800人を超え、住家の6割が流失。住民は高台に集団移転し、中心市街地をかさ上げした。